

魅力的に見える顔の比率の男女差 Gender differences in the proportion of faces that look attractive

高坂悠花・大井京
Haruka Kousaka・Misato Oi

近畿大学
Kindai University
oimisato@gmail.com

概要

本研究は、日本人を対象に、顔の魅力的な比率に関わる男女差を検討した。異なる顔比率の画像を用いた選択課題を実施し、評価者と画像の性別の組み合わせによる選好傾向を分析した。その結果、男女とも「1:1:1」や「顔幅が目幅の5倍」の比率が好まれる傾向があったが、女性の顔ではその傾向が弱まることから、顔の魅力評価には性差があることが示唆された。

キーワード：顔認知 (Face perception), 性差 (Gender differences), 視覚的選好 (Visual preference)

1. はじめに

顔の魅力は、対人関係や社会的評価に大きな影響を与えるとされ、多くの心理学・認知科学領域で研究されてきた (e.g., Langlois & Roggman, 1990; Perrett et al., 2010)。Dion et al. (1972) は、魅力的でない顔よりも魅力的な顔を好むことを示している。顔の印象が他者の評価に与える影響についても、多数の社会実験が存在する。Landy & Sigall (1974) は、アメリカの大学で行った実験において、顔の魅力が学術的な判断や知的評価にさえ影響を与える可能性を示している。

魅力的な顔の配置に関する研究では、Langlois & Roggman (1990) が、魅力的な顔は平均的な顔の特徴を持つことが多いと報告している。これに対して、Pallet et al. (2010) は、白人女性が最も魅力的に見える顔の比率は、顔の目から口までの距離が顔の長さの 36%、両眼間の距離が顔の幅の 46% であり、顔の縦横比やパーツの配置といった構造的特徴が魅力度の判断に関与することを報告している。また、彭他 (2020a) の研究では、特定の比率を満たす顔画像を生成することで、元画像よりも主観的評価やオンラインアプリでの評価が向上することが確認されている。

そこで本研究では、これまで主に白人女性を対象として報告されてきた顔の比率と魅力の関係に関する知見を

踏まえ、日本人における「魅力的に見える顔の比率」を検討することで、文化や人種による選好の共通性・差異を明らかにすることを目的とした。さらに、評価者と顔画像の性別が同性か異性かという組み合わせによって、顔の選好に差が生じるかどうかについても分析を行った。

2. 方法

2.1 実験課題

原型となる顔画像は、Microsoft Bing を用いて作成した。その後、特定の比率 (彭・井上・原, 2020a) となるよう、Adobe Photoshop を用いて顔画像を作成した。用いた比率は以下の通りである。

- ・「髪の生え際から眉頭の下」：「眉頭の下から鼻の下」：「鼻の下からあご先」 = 1 : 1 : 1
- ・「顔の横幅」：「顔の縦の長さ」 = 1 : 1.46
- ・「顔幅」が「目の横幅」の 5 倍

元画像



1 : 1 : 1



横縦 1 : 1.46



顔幅が目幅の 5 倍



「元画像と加工画像」または「加工画像2枚」を2枚1組で呈示し、各質問で実験参加者はどちらが魅力的に見えるかを選択した。画像の組み合わせは全12種類(4×3)で実施した。

2.2 実験参加者

Web アンケートに有償(約100円)で回答することに同意した108名が参加した(男性58名 女性50名)。

2.3 手続き

2種類の顔画像を各参加者に同時呈示し「どちらがより魅力的に見えるか」の選択を求めた。回答は強制選択式であった。

3. 結果

回答者の性別および顔画像の性別ごとに、各顔画像が選択された度数を表1から表4に示す。

表1 男性画像に対する男性の回答				
質問番号	元画像	横縦1:1.46	1:1:1	顔幅が目幅の5倍
a	57	1		
b	48		10	
c	36			22
d		3	55	
e		4		54
f			21	37

表2 女性画像に対する男性の回答				
質問番号	元画像	横縦1:1.46	1:1:1	顔幅が目幅の5倍
A	52	6		
B	38		20	
C	31			27
D		10	48	
E		17		41
F			20	38

表3 男性画像に対する女性の回答

質問番号	元画像	横縦1:1.46	1:1:1	顔幅が目幅の5倍
a	50	0		
b	42		8	
c	27			23
d		0	50	
e		3		47
f			17	33

表4 女性画像に対する女性の回答

質問番号	元画像	横縦1:1.46	1:1:1	顔幅が目幅の5倍
A	47	3		
B	39		11	
C	37			13
D		9	41	
E		18		32
F			24	26

男性回答について χ^2 乗検定を実施したところ、「d」と「D」に偏りの傾向が認められた($\chi^2(l)=3.12, p=.077$)。男女いずれの画像に対しても「横縦1:1.46」よりも「1:1:1」を選択する割合が有意に多かった。ただし、女性画像では男性画像よりも「横縦1:1.46」を選択する割合が有意に多かった($p<.05$)。更に、「e」と「E」についても有意な偏りが認められた($\chi^2(l)=8.37, p<.01$)。男女いずれの画像に対しても「横縦1:1.46」よりも「顔幅が目幅の5倍」を選択する割合が有意に多かった。ただし、女性画像では男性画像よりも「横縦1:1.46」を選択する割合が有意に多かった($p<.05$)。

同様に女性回答について χ^2 乗検定を実施したところ、「d」と「D」に有意な偏りが認められた($\chi^2(l)=7.81, p<.01$)。男女いずれの画像に対しても「横縦1:1.46」よりも「1:1:1」を選択する割合が有意に多かった。ただし、女性画像では男性画像よりも「横縦1:1.46」を選択する割合が有意に多かった($p<.05$)。更に、「e」と「E」についても有意な偏りが認められた($\chi^2(l)=11.81, p<.01$)。男女いずれの画像に対しても「横縦1:1.46」よりも「顔幅が目幅の5倍」を選択する割合が有意に多かった。ただし、女性画像では男性画像よりも「横縦1:1.46」を選択する割合が有意に多かった($p<.05$)。

4. 考察

これらの結果から、男女のいずれの回答においても、「横縦1:1.46」よりも「1:1:1」や「顔幅が目幅の5倍」の比率が有意に多く選択される傾向が認められた。これは、均整の取れた構造や相対的に広い顔幅が視覚的魅力として認識されやすいことを示唆している。しかし、女性の顔に対してはこの傾向が弱まることから、顔の魅力評価において性別による判断基準の違いが存在することが示唆される。なお本研究では、3つの条件を同時に複数満たす顔画像は作成していない。そのため、特定の比率が複数同時に影響している可能性については、十分検討できていない。今後の課題として、複数の条件を兼ね備えた顔画像を作成し、各比率の影響を独立して評価できるような設計が求められる。

5. 文献

- 日本顔学会・原島博 (2015) . 顔の百科事典 丸善出版
- 鈴木直人 (2007) . 感情心理学 (朝倉心理学講座 10) 朝倉書店
- 彭 然・井上 光平・原 健二 (2020a) . 顔の美しさに関する黄金比に基づく顔画像の生成 第28回 Visual Computing 発表論文集 <https://hdl.handle.net/2324/4150680>
- 彭 然・井上 光平・原 健二 (2020b) . 目の部分の対称性とバランスに関する研究 2020 年度電気・情報関係学会九州支部連合大会 (第 73 回連合大会) 講演論文集 セッション ID: 06-2P-05. https://doi.org/10.11527/jceek.2020.0_405
- 髪井 宏江・伊佐治 せつ子 (2011) . 女子大生から見るキレイ顔の要因. 武庫川女子大学紀要. 自然科学編 59, 1-6.
- P. Pallett, S. Link, and K. Lee. (2010). New “golden” ratios for facial beauty. *Vision Research*, 50(2), 149–154.
- Langlois, J. H., & Roggman, L. A. (1990). Attractive faces are only average. *Psychological Science*, 1(2), 115 - 121. <https://doi.org/10.1111/j.1467-9280.tb00079>
- Landy, D., & Sigall, H. (1974). Beauty is talent: Task evaluation as a function of the performer's physical attractiveness. *Journal of Personality and Social Psychology*, 29(3), 299 - 304. <https://doi.org/10.1037/h0036018>